

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
治燥剂 滋陰潤燥剂 2		
ひやくごうきんとう 百合固金湯	養陰清熱・潤肺化痰	生地黄 6g・熟地黄 9g・麦門冬 4.5g・百合・白芍・当帰・貝母・生甘草各 3g・ 玄参・桔梗各 2g 水煎し服用する。
医方集解	<p><主治> 肺腎陰虚、虚火上炎 咳嗽、痰に血が混じる、咽喉が燥いて痛む、手足のほてり、身体の熱感、盗汗、舌質が紅絳、舌苔が少ない、脈が細数などを呈す。</p> <p><病機> 肺腎陰虚で内熱が生じ、虚火上炎を伴った病態である。 虚火が上炎するので咽喉が乾燥して痛み、虚火が肺を灼し肺気が上逆するために咳嗽、喀痰、呼吸促迫が生じ、肺絡が灼傷されると痰に血が混じる。手足のほてり、身体の熱感（骨蒸）、盗汗、舌質が紅絳、少苔、脈が細数などは、陰虚内熱をあらわす。</p> <p><方意> 養陰清熱と、潤肺化痰を併施する。 熟地黄・生地黄は滋腎陰に、百合・麦門冬は潤肺止咳に、玄参は滋腎潤肺に働き、共同して肺腎を滋補する。生地黄・玄参は、清熱涼血により内熱を清する。養血和陰の当帰・白芍は滋陰を補佐し、貝母・桔梗は清肺化痰、止咳に働く。生甘草は諸薬を調和し、桔梗と共に利咽にも働く。全体で肺腎の陰液を充足させ虚火を鎮め、止咳化痰する。</p> <p><参考> 加減法 痰が多いときは、清潤化痰の桔梗を加える。 咯血があれば、昇提の桔梗を除いて涼血止血の茅根・仙鶴草などを加える。</p>	